

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.158

2021 December

12月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

奇をてらう

意図的に、だれもしないことや一風変わったことをしたり見せたりして、周囲の人の注意や関心を引こうとすることです。「奇をねらう」とはいけません。

「個別最適な学び」とは何か

- 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」は、従来の「個に応じた指導」を子どもの立場から言い表したものです。
- 「個別最適な学び」は、1人1台の端末が整備され、個別学習がこれまで以上に展開されることから、改めて課題になっています。

今月の記念日

12月18日

国連加盟記念日

1956年(昭和31年)のこの日、日本の国際連合(国連)への加盟が承認されました。日本は80番目の加盟国でした。

「個別最適な学び」の意味

中央教育審議会は令和3年1月26日に「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」と題する答申をとりまとめ公表しました。この報告のサブタイトルに「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と示されたことから、特に「個別最適な学び」に関心と疑問が集まっています。

例えば、「個別最適な学び」とはどのような学びなのか。なぜいま「個別最適な学び」が求められるのか。これまでの「主体的な学び」や「個に応じた指導」などとどこが違うのかなどの疑問が出されています。

答申によると、「『指導の個別化』と『学習の個性化』を教師の視点から整理した概念が『個に応じた指導』です。この『個に応じた指導』を学習者の視点から整理した概念が『個別最適な学び』である」と説明されています。すなわち「個に応じた指導」は教える立場からの表現であり、「個別最適な学び」は学習者の立場からの表現だといえます。教師の立場か、子どもの立場かの違いはありますが、学習や指導の中身に差異はないようです。

かつて、「教材」に対して、「学習材」

といういい方があり、流行り言葉として教育界に広がりました。1980年代のことです。教材とは教える材料ですから、教師の立場からの用語です。それに対して学習材とは学習のための材料ですから、子どもの立場からいっている用語です。立場に違いはありますが、両者の中身には根本的な違いはありません。いまでは「学習材」の用語が影を潜め、一般的に「教材」という用語が使われています。

「個別最適な学び」とは、「教師がひとりひとりの状況に応じて指導を充実させることにより、ひとりひとりの子どもが最適な状態で主体的に学びを深めていく学び」と捉えることができます。このように考えると、新たに提起された「個別最適な学び」は特別な学びを求めているものではないといえます。

なぜ「個別最適な学び」なのか

かつて、学校や授業の場で個別化・個性化教育が話題になり、実践されたことがあります。特にオープンスクールやオープンスペースを有する学校において、ひとりひとりの子どもに応じた指導を充実させるひとつの指導方法として取り入れられました。実践の背景には、子どもの能力差が拡大し、学びの多様性が顕在化したこと、落ちこ

ぼれが社会問題になったこと、一斉画一的な指導では個が埋没すること、さらに自己教育力の育成が課題として指摘され、学校教育や教師の役割が問われたことなどがあげられます。

当時は、学習内容に系統性が強い算数科などで「個別化」が、系統性が比較的ゆるやかな社会科、理科、図画工作科などで「個性化」の取り組みが行われました。「指導の個別化」「学習の個性化」などと、両者を区別した用語が使われたこともあります。今回の答申にもこれらの用語が見られます。

答申が「個に応じた指導」に相当する「個別最適な学び」を重視している背景には、1人1台の端末が整備されたことにより、これまで以上に子どもひとりひとりの学びが個別に展開されるようになることがあげられます。デジタル端末という、これまでない新しい学用品の整備が背景にあります。

このような「個別最適な学び」は、「学習は個別に成立する」、「学習は多様に展開される」という、学びの原則に立って奨励されているものです。

個別的な学びとともに重視したいのが「協働的な学び」です。子どもの学びが孤立したり孤独になったりしないよう、友だちとの学び合う機会を重視します。これはわが国の学校教育における伝統的な学びのスタイルです。

ガスが抜けると世界がダメになる

発展途上国の人たちが、食料不足で飢えに苦しんでいる様子を学んでいるときのことです。H男くんは黒板のところに出てきて、気球の絵を描きながら次のように主張しました。

「ここに気球があります。中には土ではなくガスが入っています。発展途上国は、日本から遠く離れたところにあるかもしれませんが、例えば食料危機のような問題が起こるといことは、そこからガスが抜け出しているということです。すると、気球はどうなりますか。気球がしぼんでいくと、やがて日本も影響を受け、世界中がダメになってしまいます。だから、途上国の問題は日本の問題なのです。なので、いま、このガスもれをなくすために、援助が必要なのです。」

日本のことを中心に考える傾向の強いこの時期の子どもが、地球的な視野から問題の深刻さに気づき、その問題解決の必要性を訴えました。それは「宇宙船地球号」とか「運命共同体」といった難しい言葉を使わずに、それらの考え方や意味をH男くんがの理解とコトバで説明したものです。地球を気球に置き換え、途上国の問題をガスもれにたとえたこともあってだれにでも大変わかりやすく、とても説得力のある内容でした。子どもたちはうなずきながら聞き入っていました。

「自分の言葉で」とか「自分なりの考えを」といいます。わかったことや考えたことをそのまま表現するのではなく、身近なもの（こと）に置き換えて説明させると、その子どもの理解の仕方がわかります。板書させたりノートに書かせたりすることで、個性的な考えや考え方が見える化されます。

教育の動向

授業時数の特例校制度

文部科学省は、来年度から授業時数の特例校を設ける制度を創設します。現在、特例校を募集しています。

各教科等の年間の標準授業時数は、学校教育法施行規則で定められています。特例校では時数の1割を上限に下回ることができる制度です。生み出された授業時数は、他の教科等の指導に上乘せすることができます。ただし、標準授業時数が35時間以下の道徳科や学校の裁量で計画される総合的な学習の時間は削減できません。

上乘せした時間で指導する学習内容として、文科省は、「学習の基盤とな

る言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するケース」と「統文化教育、主権者教育、消費者教育などの現代的な課題に対応した資質・能力を育成するケース」を示しています。

特例校における措置は、カリキュラム・マネジメントに関する学校の裁量を拡大するためとしています。

学習指導要領の指導内容は標準授業時数で指導することを想定して示されています。授業時数を1割を上限に下回って設定したとき、その時間に見合った指導内容はどうか。内容を一部削減できるのか、できないのか。もし削減するとき、その教科の学力は保障されるのか。削減した場合には、その内容や新たな指導方法を保護者や子どもたちに伝える必要があります。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと 26

学校週5日制と学力観の転換

学校週5日制が初めて導入されたのは、私が文部省に異動した平成4年の9月でした。最初は月に1回で、その後2回になり、完全な週5日制が実施されたのは平成14年4月です。5日制への移行は明治5年に学制が公布されて以来の制度変更でした。

子どもが学校に登校して勉強する時間が少なくなりますから、保護者から子どもの学力が低下するのではないかという声が出されました。学ぶ日数が少なくなるのですから、保護者の心配は納得のいくものです。

週5日制は教員の労働問題でもありましたが、実施する合理性を子どもの立場から説明するには、「学力とは何か」という課題に正対する必要があります。それまでの学力は知識や技能

といった意味あいでは捉えられていました。こうした量的な学力観だけでは、5日制下において学力低下は避けられません。そこで提唱されたのが「新しい学力観に立つ教育」でした。

これは「知識や技能を共通的に身に付けさせることを重視して進められてきた学習指導の在り方を根本的に見直し、子供たちが進んで課題を見付け、自ら考え、主体的に判断したり、表現したりして、解決することができる資質や能力の育成を重視する学習指導への転換」（『新しい学力観に立つ教育課程の創造と展開』文部省、平成5年9月）を図るものでした。

この考え方はその後学校教育法における学力の規定や、今日の学力の捉え方や資質・能力の構成につながっています。当時は学力観を転換することの真意がなかなか伝わりませんでした。

2022年度 新企画!

タブレット活用を全力サポート!

漢字・計算デジタル教材活用法

ドリル・スキルアップのデジタル教材活用実践例!

●2022年度ドリル・スキルアップをご採用の先生に教師用資料としてお届けします。

編集後記

文部科学省の調査によると「全国の公立の小学校等の96.2%が『全学年』または『一部の学年』で端末の利活用を開始（2021年7月末時点）」したとのことでした。しかしながら、導入後の端末の効果的な使い方など、今後検討すべき課題は多いと感じています。(F記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2021年12月1日